

随 想

日本での初体験

張 宇

私は昨年春に留学生として日本に来ました。初めての海外旅行で、日本語を流暢に話すことができるわけではないので、とても不安でした。しかしその不安をよそに、生活は順調に進んできました。

初日地下鉄に乗るときに、路線図や駅名などがどこでも見えるようにはっきり書いてあって、同じ漢字を使う私達にとっては非常に分かり易く、車内放送が聞き取れないことも全く気になりませんでした。品物を自由に選べるスーパーやコンビニでは、落ち着いて買い物でき、日本語をうまく話せない不安はすっかり吹き飛んでしまいました。一方、学校は留学生に対し、いろいろ点で援助してくれました。図書館は遅くまで利用でき、無料の言語講座があり、見学旅行も安くなっており、時間がいくらあっても足りないほどです。

日本では物価はかなり高いですが、治安も良く、水もおいしいし、町は静かで、とても清潔で、暮らしやすいところだと思います。

そして尤も感心していることは進んだ先端技術です。私は留学している名大病院放射線科は、最新のCT、MRI、PETなどの設備を揃えて、これらを使用すると、撮影は非常に速く、写真はきれいに作れます。しかもPACSも導入されており、フィルムを運ばなくても写真がすぐ手に入るようになっていることに驚きました。レポートを作るとき、新しい情報を得たいとき、何をするにもコンピュータを利用できるようになって、大変充実した日々をおくっています。

たぶん大学の付属病院なので、医学生を養成する面が重視されています。日本人の放射線医、特に若い先生達は放射線治療のほかに、CT、MRIに超音波やRIまでの読影はできなければならない、それに加えて血管造影の技術も要求されており、幅広い技能を身につけるようになっています。その上に、ゼミや学会がかなり多くあります。私は最初のうちわかりませんでした。よく聞くと、とてもいい勉強になりました。

我が国、中国ではアメリカ製や日本製の画像診断装置をたくさん使っていま

すが、やはり日本のように充分ではありません。私が以前勤務していた病院では、機械がやや古いため、クリアな画像が得られないのが一番の悩みでした。新しい装置の導入も計画されていますが、まず医師のレベルを高めることがもっと大事だと思います。

日本に来てそろそろ一年になります。先生やまわりのスタッフの皆さんに優しく教えていただいて、すばらしい体験をすることができました。そして日本人の時間に追われながらも一生懸命に働く姿にすごく感動しました。

さまざまな経験をして人間は成長していくものです。私はまだ四年間の大学での生活が残っています。いろいろまだ知らないことは多くありますが、これから新しい人生を始めるつもりで、もっと頑張りたいと思っています。

(名古屋大学大学院医学研究科博士課程)